THE ANNUAL REPORTS OF
HEALTH, PHYSICAL EDUCATION
AND SPORT SCIENCE
VOL.39, 59-73, 2020

原　著

ヨーロッパ民族舞踊と新体操競技における作品構成
第二報　ジョージア民族舞踊とサロメ・パジャヴァ選手個人競技クラブ作品の変遷

Choreography of European Folk Dance and Rhythmic Gymnastics Report Ⅱ：Georgian Folk Dance and Changes in Salome Pazhava's Individual Clubs Routines

山　本　里　佳

Rika　YAMAMOTO

ABSTRACT

In rhythmic gymnastics, many routines can be seen that incorporate motifs of folk dance, particularly that of Eastern Europe, which has a rich culture of folk dance. This study, entitled "Choreography of European Folk Dance and Rhythmic Gymnastics", unravels the choreography of rhythmic gymnastics from multifaceted a perspective, including sporting aspects as well as from the standpoint of ethnology, a field that studies society and culture, namely the culture fostered in the European continent, in a cross-cultural, multilateral way. This study examines the question: how does "folk dance", as a "major historical and cultural" aspect of an ethnic or national unit (Yugeta 2020:3) influence rhythmic gymnastics?

As the second report in the "Choreography of European Folk Dance and Rhythmic Gymnastics" study, this paper analyzes the methods of incorporation of Georgian folk dance elements in individual clubs routines performed by the Georgian rhythmic gymnast Salome Pazhava between 2013 and 2016, and the changes in these routines. This paper will elucidate the "choreographer's worldview", in particular, a commentary by Eliso Bedoshvili, one of the choreographers, on the creative process of her routine serves as a valuable record. This paper's contents, namely the commentary by a globally top-class coach and choreographic analysis, will assist with future creation of rhythmic gymnastics routines worldwide.

Key words; Rhythmic gymnastics, Georgian folk dance, Code of points

国士舘大学体育学部体育学科（Kokushikan University School of Physical Education）

Ⅰ．は　じ　め　に

新体操では民族舞踊が豊富な東欧を中心に民族舞踊をモチーフにした作品構成が多く見受けられる。本研究「ヨーロッパ民族舞踊と新体操競技における作品構成」はヨーロッパ大陸で培われた、文化・社会を通文化的・横断的に研究する領域である「民族学（ethnology）」の視点とスポーツの側面から多角的に新体操作品構成を紐解いてゆく。民族・国家単位の「大きな歴史・文化」としての「民族舞踊」（弓削田，2020：3）が新体操作品構成に如何なる影響を付与するのか。ここでは昨年に続く第二報として「ヨーロッパ民族舞踊と新体操競技における作品構成」2013年から2016年のサロメ・パジャヴァ選手（ジョージア）の個人競技クラブ作品のジョージア民族舞踊導入の手法と作品の変遷を分析する。

ソビエト社会主義共和国連邦時代よりジョージアは優秀選手を輩出してきた。国際的評価を得たジョージア出身の選手には、1979年第9回世界新体操選手権大会の個人競技ボール優勝のイリナ・ガバシュビリの他、2013年から2019年まで活躍したサロメ・パジャヴァ（Federation International de GYMNASIQUE, 2021, UNITID GEORGIAN GYMNASTICS FEDERATION, 2012）が挙げられる。2013年から2016年にかけてパジャヴァ選手が演じた個人競技クラブ作品は、この間に開催された国際体操連盟（以下「FIG」と記す）新体操技術委員会主催の国際審判研修会で数度に亘り注目すべき芸術作品として紹介された。この評価の理由は、独創性に溢れる秀逸な構成と音楽との一致という点にある。現在の新体操界は、2017年の新体操採点規則改正に伴った難度点の制限撤廃を受け、技術の高度化が加速している。これは高得点獲得のために生じた技術偏重とも捉えられる現代の新体操の姿である。2013年から2016年のパジャヴァのクラブ作品と、その演技は数々の国際大会で称賛を浴び、現在も人々の心を捉えて離さない。その理由は音楽と手具と動きの一致によって織りなされる「新体操の本質」である「芸術」を鑑賞者に想起させたからであろう。本稿で追った作品創作の過程から結果迄のプロセスは、現代新体操の在り方について深く語りかけるものがある。よって本稿は、現代の新体操が損ねている芸術性を復活させるための手がかりとして記録を残すものである。

Ⅱ．目　　的

本稿は「ヨーロッパ民族舞踊と新体操競技における作品構成」のシークエンスの第二稿として、ジョージア民族舞踊とサロメ・パジャヴァ選手のクラブ作品に焦点を当てる。本作品が2013年から2016年の4年間に亘って国際的評価を得た要因の1つである「創作者の世界観」を作品構成分析によって明らかにし、記録を残すことを目的とする。よってⅡ．ジョージア民族舞踊とサロメ・パジャヴァ選手個人競技クラブ作品の変遷についての探求を開始する。

Ⅲ．方　　法

本研究では調査資料としてFIG提供の録画資料と本作品に関わってきた人物のインタビュー調査のほか、参考文献を用いた。本稿では始めに本作品のモチーフである民族舞踊に焦点を当て《音楽の選択と作品構想》、《ジョージア民族舞踊の背景と種類》、《作品中におけるジョージア民族舞踊》の順に説明する。次に民族舞踊と本作品をスポーツの側面から多角的に考察するために《新体操採点規則とダンスステップコンビネーション》《作品構成分析》を説明する。なお、作品分析と考察のために作品創作者の一人であるエリソ・ベドシュヴィリ氏、現FIG新体操副技術委員長の関田史保子氏にインタビュー調査を実施し記録した。インフォ ーマントから得た情報は、2004年から2021年の17年間に亘り、世界新体操選手権大会、ワールドカップ等で日本のFIG新体操国際審判を

務める筆者がまとめた。資料の詳細と使用箇所は以下のとおりである。

①録画映像

4.《音楽の選択と作品構想》、5.《ジョージア民族舞踊の背景と種類》、6.《作品中におけるジョージア民族舞踊》、7.《新体操採点規則とダンスステップコンビネーション》、8.《作品構成分析》の分析に使用。

・2013年から2015年のサロメ・パジャヴァ選手個人競技クラブ録画映像。
FIGと関田から提供を受けた（イルコスシステム）の映像を使用した。イルコスシステム使用については2019年4月に関田に承諾を得た上で、2019年8月15日にFIGスポーツマネージャーから新体操研究資料としての活用に同意を得た。

・ジョージア民族舞踊カルトゥリ、ラチュリ、イロウリ、カズベグリ、ラチュリ　モケ・カバ（グループバニ）の録画映像。
ベドシュヴィリ提供のURLをもとに、YouTube映像を使用した。

②インタビュー資料

考察と分析の実施にあたり、

・ベドシュヴィリにはSNSを利用しインタビューを実施した（2020年12月4日、12月8日、2021年1月13日、1月18日、２月7日、8日）。インタビューの内容は4.《音楽の選択と作品構想》、6.《作品中におけるジョージア民族舞踊》に使用した。質問の内容は以下に示す。

1）論文執筆についての了承について。
2）ジョージア民族舞踊と音楽引用の理由。
3）曲の題名と作品に引用したジョージア民族舞踊の種類と背景。
4）作品に引用したジョージア民族舞踊の使用箇所。
5）作品創作者の氏名と実名掲載についての了承。
6）ジョージアが輩出した有名選手の名称と競技成績。

・現FIG新体操副技術委員長の関田には電話とSNSを用いてインタビューを実施し、書面で回答を得た（2021年1月19日、2月12日）。インタビューの内容は1.はじめに、9.《まとめ》に使用し、下記の質問を行った。

1）2013年から2016年のFIG新体操技術委員会主催審判研修会でパジャヴァクラブ作品が頻繁に紹介された理由。
2）FIG新体操技術委員会副委員長としてのパジャヴァクラブ作品の印象。
3）役職、氏名と実名掲載についての了承。

③参考文献・Webサイト

1）民族舞踊関連文献、ジョージア民族舞踊関連文献、ジョージア文化関連サイト
ジョージア民族舞踊関連献について在日本ジョージア大使館からインフォメーションを得た（2020年12月7日、12月14日）。
2）バレエ関連文献
3）2013-2016新体操採点規則

より抽出。

Ⅳ．音楽の選択と作品構想

2012年、パジャヴァのコーチであるベドシュヴィリは、リオデジャネイロオリンピックを視野に、ジョージアのアイデンティティを作品に導入することを検討していた。検討の結果、二人のコーチ、ベドシュヴィリとラリ・ドリッツェは、当時ジョージアで人気のあったジュフィ・バニが率いる音楽バンドである「グループバニ」の楽曲「ラチュリ　モケ・カバ」を選曲する。この音楽バンドはジョージアの伝統楽器で最も広く使用されている3弦のロングネックリュートのパンドゥリ（シラカツェら，2005：453)、コーカサス全般にある二面太鼓のドリ（ぐるじあナビ，2020)、そしてアコーディオン、ギター、アコースティックギター、マラカス等を使用し、コーカサスの山岳民族から受け継がれてきたポリフォニーを取り入れている。ポリフォニー（多声音楽）とは、複

数の異なる動きの声部（パート）が協和しあって進行する音楽のことで合唱の原点とも言われている。ジョージアのポリフォニーはコーカサスの山岳音楽として受け継がれ、歌は三つの違う音域から成り立つ。コーカサスの口承文芸は2500－3000年前には生活に定着していたと言われており、ギリシアの歴史家ストラボンは紀元前1世紀の戦いでジョージア人が歌った多声音楽の聖歌を記している。ポリフォニーは独特の音階とリズムで歌唱することが知られており、2001年ユネスコの人類の口承による無形文化遺産に登録されている（ジョージア政府観光局，2020）。

以下はジョージア民族舞踊導入の理由、ジョージア民族音楽とラチュリの引用について筆者がベドシュヴィリにインタビューした内容の一部である。

У грузин есть своя история,культура и танцы,которые не похожы ни на какие другие народы.
Мы любим свою историю и гордимся своей древней культурой.
Поэтому хотели,чтобы в нашем мире художественной гимнастике увидели какая у нас красивая индивидуальность.
Это упражнение стало визитной карточкой Саломе,все узнали о Грузии и запомнились этим упражнением.
Мы в упражнении немного рассказали о истории и разнообразии танцев нашего народа.
ジョージア人は、他の国とは異なる独自の歴史、文化、踊りを持っています。
私たちは歴史を愛し、古代の文化に誇りに思っています。
だからこそ、私たちは新体操で私たちの美しい個性の世界を見せたいと思っていました。
この演技はサロメの特徴となり、この演技によって誰もがジョージアについて知り、想いを馳せたのです。
私たちは練習の中で、私たちの民族舞踊の歴史と多様性について少し話しました。
(2021年2月8日、9日：エリソ・ベドシュビリのインタビューより、筆者訳出)

Эти упражнения делаем мы,два тренера Лали Долидзе и Элисо Бедошвили.Эту музыку поет грузинский ансамбль Бани и называется композиция Рачули.В тот момент,когда мы составляли упражнение,грузинская группа Бани исполняла эту песню и была очень популярная.
この演技は私たち二人のコーチ、ラリ・ドリッツェ、エリソ・ベドシュヴィリが創りました。この音楽はジョージアのアンサンブル、バニによって演奏され、ラチュリという名前で呼ばれています。私たちが動きの構成を行っているこの時に、ジョージアのグループ、バニのこの歌がとてもポピュラーだったのです。
(2020年12月4日：エリソ・ベドシュビリのインタビューより、筆者訳出)

図1　2015年シュトゥットガルト世界新体操選手権大会より
（左）ラリ・ドリッツェ（中央）サロメ・パジャヴァ（右）エリソ・ベドシュヴィリ　写真提供：エリソ・ベドシュヴィリ

Ⅴ．ジョージア民族舞踊の背景と種類

トレドらによると、今日の新体操では北米の音楽が最も使用されている（トレドら，2018：432）。その中にあって文化と歴史に根差した民族音楽と民族舞踊は、新体操の演技にインパクトを与え、異彩を放つ。そのため、民族舞踊の種類が豊富な東ヨーロッパ諸国やスペインは、新体操作品にしばしば自国の民族舞踊を引用する。これらの国々の民族舞踊では剣、カスタネット、扇、ハンカチーフなど、各国の文化的背景を持つ小道具が使用されることが多いが、新体操の作品中では手具をあたかもこれらの小道具のように扱い、モチーフとした民族舞踊そのものを表現することが多い。

ジョージアでは古代狩猟場に神の象徴としてのサークル（円）が発生した。ジョージア民族舞踊は、古代民俗学に関わる太陽信仰のサークルに端を発する（ゲリアシュヴィリ，2014：4）といわれている。芸術的振り付けはジョージアの古代の伝統にも存在するが、文化の初期段階においては、芸術的舞踊は主に宗教的信仰と儀礼に連結し、これを通しての付加的要素としての芸術的情緒は除外されていた（マカツァリア，2004：26）。やがてコーカサス先住民は、南東からきたトルコ人と初めて同化し、そののちギリシア人の到来、モンゴル侵入、ロシアの統治など、外界の影響を最大に蒙ってきた。ジョージアのコサックたちが鷲を崇拝していた頃、彼らは鷲が獲物を襲うやり方を〈レズギンカ Lezginka〉の踊りで表現した。彼らはまず、爪先立ちの小刻みなステップで素速く円を描いてまわる。そして、短剣を地にほり投げたり、くわえたりして鷲を表現する。それらは馬のギャロップやリアリングなどから直接派生した多くのステップから成っている（ローソン，1975：85）。レズギンカは、コーカサス地方のレズギ族に伝わる民族舞踊で、女性への敬愛を表現する舞踊の一種であったが、ハチャトゥリアン作曲のバレエ音楽「ガイーヌ」で使用されたことにより、打楽器の速いテンポと激しいリズムを持つ音楽とダンスが知られるようになった（Georgia About, 2020）。〈ホルミ Khormi〉は山岳戦を表現したもので、征服はされなかったが、その独立を維持するために常に戦わねばならなかったこの土地の歴史を反映している（ローソン，1975：85）。この戦闘ダンスはジョージアの南西・アチャラの近郊が起源である。このダンスはトルコ人、モンゴル人、および他の国家の侵略軍隊に対する勇ましい戦争が由来である。元来、少人数で踊られていたが、30人から40人で踊られることも多い。このようにジョージア民族舞踊はジョージアの豊かで多様な文化と生活に根差しており、個々のダンスは、ダンスの源となる領域の特徴を表しているといわれている。〈カンジュルリ Khanjluri〉は短剣を保持し、緋色の「チョハ」と呼ばれる伝統的紳士服を身に着け、すさまじいエネルギーで踊るダンスである。山岳ダンスである〈ケヴスルリ Khevsuruli〉は女性をめぐる戦い、愛情、競争、勇気を表現し〈ムティウルリ Mtiuluri〉は大きな胴のツイストと跳躍を伴う身体能力の競争である。この二つは谷または低地のダンスと異なる。例えば男女の関係がフレンドリーなダンスでは、黒海沿岸ジョージアの南西のアチャラ地域に端を発する〈アチャルリ Acharuli〉と、優雅な都市ダンスである〈ダヴルリ Davluri〉の衣装は各々のダンスで異なるものの、ジョージアの各領域のいにしえの衣装と似かよっている。〈スィムディ Sindi〉はオセット人ダンスで、男性および女性のダンサーの衣装は、長い袖の黒と白の衣装を身に付ける。そして厳密なラインフォーメーションをとる。〈スヴァヌリ Svanuri〉は、ジョージアの北西の高地スヴァネティ領域に住んでいるスヴァン族のエネルギッシュなダンスである。〈スリク Sulik またはコクビ Kokbi〉は水差し（kokebi）を持つ女性のダンスで優美さを表す。〈サミア Samia〉はジョージアの歴史上の最初の女王であるタマルを表し、三人の女性によって踊られる。三人の女性はそれぞれ「若いプリンセス」「賢明な母」および「強力な王」の意味を持つ（Georgia About, 2020）。

Ⅵ. 作品中におけるジョージア民族舞踊

ジョージアには多数の民族舞踊が存在する。現在のジョージア民族舞踊は、イリコ・スキシュヴィリとニノ・ラミシュヴィリが、ジョージアの各地域の伝統に基づいた舞踊を集約したものである(Sukhishvili Georgian National Ballet, 2020)。スキシュヴィリとラミシュヴィリが集約した舞踊は芸術作品として、現在はスキシュヴィリジョージア国立バレエで上演されている。４.におけるベドシュヴィリの語りではジョージア北部に位置する南オセチア共和国のラチャ地方（ウィキペディア，2021）の民族音楽ラチュリを引用したとされているが、引用されているステップはラチュリのほか、多岐に亘っている。よって、2021年1月12日にベドシュヴィリにパジャヴァのビデオと、スキシュヴィリジョージア国立バレエのビデオを同時送信し、2013年1月13日にビデオ確認後のベドシュヴィリにインタビューを実施した。作品に引用したジョージア民族舞踊のステップについてベドシュヴィリは下記のように述べている。

Первые танцевальные шаги для Саломе, мы задумали из грузинского танца КАРТУЛИ,что значит ГРУЗИНСКИЙ, вначале она прошла как девушка,а потом стала делать партию мужчин,которая очень сложная.

最初のダンスステップは、サロメの為にジョージア民族舞踊のカルトゥリ（これはジョージアンを意味する）から考案しました。最初は女性の動きから開始し、次に男性の役割を果たし始めます。これは非常に難しいことです。

(2021年1月13日：エリソ・ベドシュビリのインタビューより、筆者訳出)

本研究で取り上げるパジャヴァ選手のクラブ作品は4種類の舞踊から構成されており、これらの舞踊の背景はそれぞれ異なっている。下記に民族舞踊の説明を引用順に挙げる。

〈カルトゥリKarutuli〉は優雅な求愛ダンスである。男性は両足をブラッシングさせ、女性は伏し目で白鳥が湖面を滑るように移動する（Georgia About, 2020)。〈ラチュリRachuli〉ラチュリとはジョージア北部に位置する南オセチア共和国のラチャ地方で踊られているジョージア民族舞踊である。ラチャ地方の民族舞踊ラチュリは古くから地元で踊られ、音楽もフォークソンググループによって演奏されている。通常、ラチュリは普段着で踊られており、女性は長いドレスとキャラコで作られたエプロン姿、男性は伝統的ジョージア式のズボンとスーツを着用する（The Messenger online, 2020)。ラチュリはスキシュヴィリジョージア国立バレエで上演されているジョージア民族舞踊とは異なり、南オセチア文化に根差した民族舞踊である。近年はラチュリも舞台演出や、音楽グループによるアレンジが試みられている。〈イロウリIlouri〉は1920年代後期のスキシュヴィリジョージア国立バレエにおいて、ニノ・ラミシュヴィリが男性の民族衣装を着用し、イリコ・スキシュヴィリと踊ったことに起源をもつ。踊りの最後に、ニノ・ラミシュヴィリが女性であったことを観衆に明らかにするために彼女の帽子を脱いだ。この時から、イロウリは定番のパフォーマンスとなった（Eurasianet Georgia, 2021)。〈カズベグリKazbeguri〉は男性のみで踊られるカズベキ山岳地方の力強い舞踊。山の男の強さと忍耐力を表現する（Georgia About, 2020)。

Ⅶ. 新体操採点規則とダンスステップコンビネーション

「大きな歴史・文化」としての「民族舞踊」(弓削田，2020：3）は新体操のスポーツ的側面の基礎を成す採点規則とどのような関りを持ち、本作品構成に影響を与えているのであろうか。2013年から2016年の新体操採点規則では、作品の50%において手具の特徴的な操作（基礎技術グループ）を有すること、手具の難度の投げと受けの

方法が異なること、マステリーの実施などが採用された。さらに難度構成中に最低一つのダンスステップコンビネーション（8秒間）を配すことが義務付けられた。このダンスステップコンビネーションでは連続的に、ひと続きになったダンスステップ（ボールルームダンス、フォークダンス、モダンダンス、など）中に手具の動きを伴って異なるリズムパターンを見せながら実施することが求められる（新体操技術委員会，2013：10）。更に実施芸術項目では、構成の統一性に「構成のアイデア／テーマを明確にすべき」、音楽と動きには「テンポ、リズム、および音楽のアクセントに応じた動きの対比」、身体の表現の特徴に「選手／手具の動きの速さと強さ（ダイナミズム）における多様性」、空間の使用には「異なる高さ、身体／手具の動きの方向／軌道の多様性（一部省略）」「移動の様式の多様性」などが求められている（新体操技術委員会，2013：20）。よって、ベドシュヴィリの語りからはラチュリ以外のステップ追加の要因としてダンスステップコンビネーションの記載項目「強さ、速さ、ダイナミズム、異なる高さ、軌道の多様性」との整合性の担保を推測することができる。

新体操採点規則は4年間のオリンピックサイクルごとに更新される。更新された規則は4年間の活用を前提に作成されているが、例年、微細な規則の修正や変更がある。これは実施された演技と採点の調整、文言の解釈の明瞭化等に起因するものである。採点規則の変化に伴いつつ、芸術性を維持したパジャヴァ作品の変容とその手法は次項で明らかにする。

Ⅷ. 作品構成分析

パジャヴァのクラブ作品のように1オリンピックサイクルで演じられる例は稀である。パジャヴァは4年間のサイクル中にクラブ作品変更を試みたが、鑑賞者がジョージア民族舞踊モチーフのクラブ作品再演を熱望したため、逆戻した経緯を持つ。鑑賞者は本作品の何に感銘を受けたのであろうか。この現象は本作品の「創作者の世界観」に対する鑑賞者の受容と評価と捉えることができるのではあるまいか。本項では、2013年から2016年の4年間に亘る作品の変容と国際的評価を得た要因の1つである「創作者の世界観」を作品構成分析によって明らかにするために、2013年から2016年の作品中の要素を図2-1から図2-6に時系列に抽出して作品の変容を視覚化する。さらに視

	演技時間・秒数	1″	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
身体難度	2013年		P										RBD			
	2014年		P									RBD				
	2015年		P										RBD			
	2016年		P										RBD			
手具難度	2013年															
	2014年															
	2015年															
	2016年															
民族舞踊要素	2013年							カルトゥリ								
	2014年						カルトゥリ									
	2015年						カルトゥリ									
	2016年						カルトゥリ									

図2-1　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

覚化した図と映像分析（民族舞踊要素、手具、身体の関連性）から創作者の意図を明らかにする。

図2-1から図2-6の各要素はスタートポジションを0秒から終了時まで、映像に示されるタイマーを用いて計測した。「身体難度」は新体操の身体難度要素であるジャンプ、バランス、ピヴォットおよびローテーションの配分を示し、英語表記の頭文字であるJ（Jump）、B（Balance）、P（Pivot）、RBD（Rotation Body Difficulty）と記した。身体難度は準備動作を開始とみなし、形の終わりで終了とみなした。「手具要素」にはR（手具難度の特徴的要素であるリスク・手具を大きく投げてから転回要素を2回転以上実施する要素）、M（マステリー・一般的でない手具操作）の配分を示した。「民族舞踊要素」の大部分は、新体操採点規則の難度であるダンスステップコンビネーション（8秒につき0.30の加点）である。「民族舞踊要素」はベドシュヴィリのインタビューをもとに記録した〈カルトゥリ〉〈ラチュリ〉〈イロウリ〉〈カズベグリ〉の箇所を示し、動作の開始から終了までをステップとみなした。各年の要素は色分けで示した。

作品の前半と中盤に引用されているカルトゥリは女性舞踊手が床を滑るように移動するステップが引用されている。初動は片手で2本のクラブを素早く回す小円と呼ばれる手具操作、次に肩に1本のクラブを乗せ、もう1本は小円操作を行う（片手）。肩にクラブを乗せて移動する様はボトルダンスや、あたかも鷹匠が肩に鷹を乗せるような姿、または物を運ぶ様子などを彷彿とさせ、男性的なニュアンスを醸し出している。この部分は白鳥を表現する女性舞踊手のステップから徐々に強弱を持つダンスへの移行を予感させるものであるといえよう。

本作品に使用されている曲は小気味よいリズムが特徴のラチュリである。図2-2の2013年から2014年までのラチュリのステップと手具操作に変化はないが、2015年から2016年にはクラブの速い2本投げを取り入れる等、手具要素の追加が見られる。ラチュリ開始からの手具操作は4年の間、一貫して変化がない。このステップでは肘に乗せた右手のクラブを下方に通過させてから右方向へ、次に左手のクラブを左方向へ差し出すような動きを行い、小円操作を行う。次いで実施されるステップは右手と右足が同時に動き出した後、左手と左足が同時に動き出すもので、その様子はあたかもスカートの裾を保持しながら踊っている踊り子のようである。そしてクラブを身体の前後

	演技時間・秒数	16″	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
身体難度	2013年	RBD														
	2014年	RBD														
	2015年	RBD														
	2016年	RBD														
手具難度	2013年															
	2014年															
	2015年															
	2016年															
民族舞踊要素	2013年		ラチュリ													
	2014年			ラチュリ												
	2015年		ラチュリ													
	2016年			ラチュリ												

図2-2　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

で交互に移動させ、両肘を曲げながら小円操作を伴う。その姿は女性がスカートをひるがえしながら踊る様子に似通っている。これらはラチュリのビデオクリップに登場する女性舞踊手の動作に通じるものがある。そしてベドシュヴィリはラチュリの終末のステップにイロウリを引用していることを語っているが、それはおそらくイロウリの動作（膝とつま先立ちを交互に使用しての座位での回転）が作品にダイナミズムを投じるとともに、イロウリの側方回転運動が次のピヴォットに同調するという特徴によるものであろう。

図2-1から図2-3に示されるように2013年から2014年では、演技開始0'47"ないし0'49"まで手具難度の実施を確認できない。だが2015年には0'33"から0'35"付近に手具難度が導入されている。この理由は、2015年から2016年から多数の選手がダンスステップコンビネーション（8秒ごとに0.30点）の数を最小限に留め、マステリー導入の選択を開始したことによる。この要因は、僅か2～3秒で0.20点を稼ぐことができるマステリーの得点獲得効率によるものである。マステリー導入の加速は技術の高度化を活発にした。そのため2013年、2014年では多少の分散が認められた身体難度が2015年からは連続な実施に変容した。更に2015年から、ほぼ大部分の民族舞踊要素はラチュリとカズベグリで構成され、イロウリはその特徴的動作からリスクや技のつなぎに使用されている。

図2-4の2013年0'58"から1'00"ではカルトゥリが登場する。掌で手具を回す様子はカルトゥリの女性舞踊手らしい優美さを示す。しかし、このパートは2013年以降には省かれ、カズベグリが引用された。

一方2014年1'23"から1'25"に登場するカルトゥリは、男性舞踊手の特徴である床をブラッシングするステップが引用されている。クラブの扱いは、片手を床と平行に横に伸ばし、もう一方の手は肘を曲げて拳を握るというカルトゥリの男性舞踊手の動きを模している。2015年には1'18"でクラブをジョイントするために、動きのつなぎとしてカルトゥリの男性ステップが引用されているが、2016年には省かれている。この理由は2016年のパジャヴァの不調にある（Federation International de GYMNASIQUE, 2021）。技術の高度化、難度の連続的導入とイロウリやカルトゥリにみられる大跳躍と膝やつま先での回転動作。これらの要素がパジャヴァの疲弊を招いたことは想像に難くない。今回使用した分析映像では、1'03"のカルト

	演技時間・秒数	31″	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
身体難度	2013年			B									P			
	2014年					B									P	
	2015年															
	2016年														P	
手具難度	2013年															
	2014年															
	2015年				M											
	2016年			M												
民族舞踊要素	2013年	ラチュリ				ラチュリ				イロウリ						
	2014年	ラチュリ						ラチュリ					イロウリ			
	2015年	ラチュリ												イロウリ		
	2016年	ラチュリ										イロウリ				

図2-3　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

	演技時間・秒数	46″	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	1'00″
身体難度	2013年	P		RBD												
	2014年	P				RBD										
	2015年	P			RBD											
	2016年	P				RBD										
手具難度	2013年			R												
	2014年					R							M			
	2015年				R							M				
	2016年					R										
民族舞踊要素	2013年		つなぎ					カズベグリ						カルトゥリ		
	2014年				つなぎ						カズベグリ					
	2015年				つなぎ					カズベグリ						
	2016年									カズベグリ						

図2-4　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

	演技時間/秒数	1'01″	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
身体難度	2013年	J		J			J						B			
	2014年				J	J				J						
	2015年	P										B			B	
	2016年				J	J									B	
手具難度	2013年							R								M
	2014年											R				
	2015年							R								
	2016年										R					
民族舞踊要素	2013年					ラチュリ										
	2014年	カズベグリ						ラチュリ								
	2015年					ラチュリ										
	2016年	カズベグリ						ラチュリ								

図2-5　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

ゥリの直後にパジャヴァは表情をゆがめ、動作のバランスを欠いている。2013年から2015年の作品には動作の空白は存在しない。だが2016年の0'49″、1'09″、1'29″ には空白の1秒が存在している。2016年は、動作の僅かな遅延の蓄積が加点対象外である、つなぎ動作を省からざるを得ない状況を生み出していたことが推測される。

再度、手具に視点を移して作品を捉えた場合、クラブという手具が、あたかもジョージア民族舞踊頻繁に登場にする短剣を彷彿とさせ、山岳ダンスや戦闘ダンスと重なり合うことに気づく。移動が大きく、ステップ中の軌道の変更と上下・左右運動の多いラチュリとカズベグリは、新体操採点規則が要求するダイナミズムを付与している。後半のカルトゥリに男性舞踊手のステップが引用されている理由もダイナミズムの付与という観点によるものである。そのほかにも作品構成上、見過ごしてはならない身体難度や動作のつなぎがある。これらはジョージア民族舞踊のモチーフに沿った動作として、三点ほど確認ができる。この動

<table>
<tr><th></th><th>演技時間/秒数</th><th>1'16"</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th><th>30</th></tr>
<tr><td rowspan="4">身体難度</td><td>2013年</td><td></td><td colspan="2">J</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2014年</td><td></td><td colspan="4">B</td><td colspan="2">J</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2015年</td><td colspan="2">J</td><td></td><td colspan="3">J</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2016年</td><td>B</td><td colspan="2">B</td><td colspan="2">J</td><td></td><td colspan="3">J</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">手具難度</td><td>2013年</td><td colspan="2">M</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="6">R</td></tr>
<tr><td>2014年</td><td>R</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">R</td></tr>
<tr><td>2015年</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="4">R</td><td colspan="4">M</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2016年</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="4">R</td><td colspan="4">M</td></tr>
<tr><td rowspan="4">民族舞踊要素</td><td>2013年</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="4">ラチュリ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2014年</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">カルトゥリ</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2015年</td><td></td><td></td><td colspan="2">カルトゥリ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">ラチュリ</td></tr>
<tr><td>2016年</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">イロウリ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

図2-6　2013年から2015年の作品構成要素の変遷

作を図3に示す。

この三点の動作は瞬発的な動きを特徴とするラチュリ、イロウリ、カズベグリをイメージさせるものである。一点目は図3左のグラン・バットマン・ジュッテである。グラン・バットマン・ジュッテは4年間を通してラチュリのステップ中に引用されている。バットマンという言葉は、片脚を離したり、引きつけたりすることを意味する舞踊の術語である。グラン・バットマン・ジュッテとは床から滑らせた脚を後ろへ、アクセントをつけて投げ上げられることである。この際に脚は止めない（ワガノワ，1996：55, 57)。本作品では、後ろに投げ上げられた脚の膝を曲げて、カズベグリの男性舞踊手の大跳躍のイメージに近づけている。二点目は、図3中央の鹿ジャンプ;リング（2013-2016新体操採点規則，2013：17）である。鹿ジャンプはジョージア民族舞踊に、しばしば登場する大跳躍である。本作品では身体難度として実施されているが、モチーフに用いられているジャンプと新体操の身体難度の選択を一致させている。この一致は、音楽の選択と作品構想、特にダンスとスポーツの融合という点で秀逸であるといえるのではなかろうか。三点目に図3右のつなぎとしてリスクの前に実施される動作が挙げられる。パジャヴァは、リスクの予備動作の膝を曲げて踏み出して回転することにより、民族舞踊のイメージに近づけている。仮にパジャヴァが、この一歩をクラシックバレエ的に伸脚で踏み込んだとするならば、美的な動作であるものの民族舞踊のイメージとはかけ離れ、単なる予備動作となった

演技写真ＦＩＧイルコスより引用

図３　ジョージア民族舞踊のモチーフに沿った動作

に違いない。律動的な僅か一歩である。

図4は要素の秒数の計測値である。一見、要素間の割合に変化はないが、2015年の各要素配分には興味深いものがある。図5の演技中の各要素をパーセンテージでは2015年の手具要素が4年間の最高値を示している。2015年に民族舞踊要素に割かれた秒数は4年間の最高値47秒を示すが、パーセンテージでは2014年と同値を示し、2013年、2016年のパーセンテージがより高い値を示す。図2-1から図2-6と照らし合わせると各年の要素比較で作品中の要素の重なり（同時に複数の要素が実施される）を確認することができる。

・2013年　0'48"、1'07"、1'12"、1'17"（4秒間）
・2014年　0'11"、0'35"、0'37"、0'44"、0'50"－0'51"、0'57"（7秒間）
・2015年　0'17"、0'34" －0'35"、0'49"、0'49"

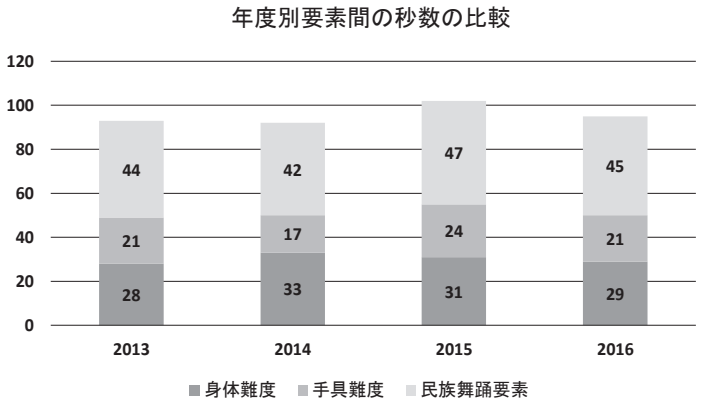

図4　2013年から2015年の要素間の秒数の比較

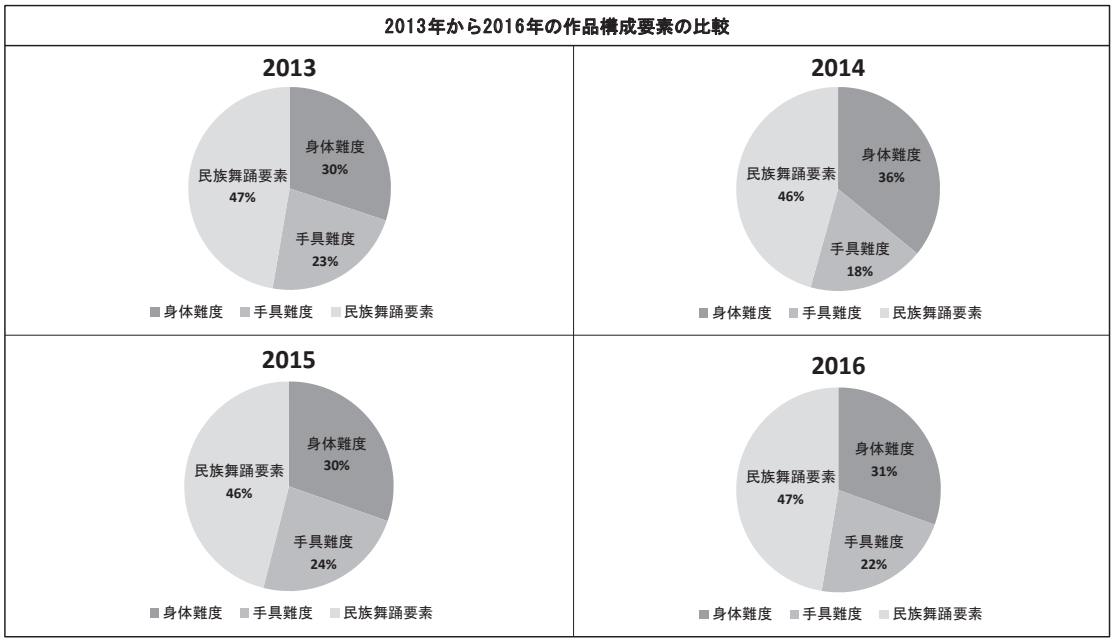

図5　2013年から2015年の作品構成要素の比較

－0’50”、0’54”、0’56” －0’57”、1’19” －1’21”（12秒間）

・2016年　0’33” －0’35”、0’50”、1’14”、1’22” －1’24”、1’26”（9秒間）

2015年には0’49” の1秒に3要素が重なり合うが、この部分は図3の右に示した、つなぎとローテーション難度、リスクによるものである。2013年は各要素が独立して配置されているが、2014年から徐々に要素の重なりが増加し、2015年では2014年の4倍の割合にのぼる。2016年にはその数値が低下する。図2から図5を読み取ることで2015年作品の複雑性とパジャヴァの充実ぶりを窺い知ることができる。

Ⅸ. ま と め

これまで本作品に引用されている3種類のジョージア民族舞踊ステップ〈カルトゥリ〉〈ラチュリ〉〈イロウリ〉〈カズベグリ〉の配分と手具操作について年を追って比較した。いずれの手具操作も引用された民族舞踊の背景に重ね合わせている。民族舞踊をモチーフとする曲を選択する際に、そのステップや背景に合致するイメージを持つ手具の選択は採点規則が要求する、より芸術性の高い新体操作品を創作するためのポイントとなる。それは本作品に示されているとおり、手具操作と身体動作の双方の連携による相互作用の結果、更なる芸術的イメージの増幅と可能性の拡大を付与するという理由によるものである。伊藤は、第二次大戦後の東欧ブロックは、政治的にも経済的にも、西欧とは異なる道を歩むことになり、「民俗音楽」も特殊な環境に置かれることになった（伊藤，2021：408）と述べている。これは民族舞踊や新体操を含む芸術スポーツにも共通している。この東欧ブロックの特殊な環境はブルガリアやソビエト連邦から芸術体操（新体操）を派生する。この流れは「手具と身体動作の双方で音楽の背景やモチーフを創造する」という思想を生んだ。この思想の流れをくむ1980年代ヨーロッパの新体操作品には本作品にみられる手法がしばしば登場する。FIG新体操技術委員会が1980年代の作品群に高い芸術性の評価を与える所以はここにある。樋口は「新体操の演技の基礎がバレエにあることが事実であるとしても、これらの競技でなされていることは、個々の選手の技量やコンディションを考慮し、ルールで規定されている難度表の技の中からその時点で最高の点数が見込まれているものを選び、減点を最小限に抑えるような演技を、競技会において（観客に対してではなく）審判に対して呈示することであり（樋口，2021：578）更に、ルールの枠の中に閉じ込められ、それによって演技の意味が定められる採点競技は、美的な動きを必然的に含んで「芸術的」であるとしても「芸術」と呼ぶことはできない（樋口，2021：579）と述べている。新体操が「芸術的」であり、「芸術」ではないという興味深い問題は今後の考察対象とするが、いかにも新体操はルールの枠の中に閉じ込められ、且つ技術の高度化の加速と芸術性の低下という問題もはらむことは事実である。実際、2016年リオデジャネイロオリンピックでのパジャヴァは、怪我によって技量やコンディションの考慮を余儀なくされ、ルールで規定されている難度表の技の中からその時点で最高の点数が見込まれているものを選び、減点を最小限に抑えるような演技を、審判に対して呈示しているのは本稿の分析からも明確である。しかし、分析によって確認されたパジャヴァのクラブ作品は4年間に亘って作品中の民族舞踊要素のパーセンテージを半数近くに維持し、新体操のルールの枠の中に閉じ込められることなく、ジョージア民族舞踊の「世界観」を創出しているのである。新体操の芸術性の指標として「身体と手具の動きを通じてその音楽のもっている特徴や感情を伝えること」（新体操技術委員会，2013：10）という一文が存在する。新体操において「音楽のもっている特徴や感情を伝えること」イコール創作者の意図するイメージの体現は、その作品の表象としての「世界観」となりうることを示すのではなかろ

うか。一方、本作品には民族舞踊要素をまとめて芸術的効果を狙うという側面と、難度要素の集中的配分という側面がある。採点規則には「難度配分は一貫性のない羅列」（新体操技術委員会，2013：20）となってはならないと記述されている。FIG新体操副技術委員長の関田も要素配分の偏りについて多くの指摘があったことを述べている。しかしながら難度要素は創作者により精査され、あたかも難度が民族舞踊要素であるかのような構成に仕立て上げられており、審判員と鑑賞者間の作品のイメージの受容には温度差が生じていることは事実であろう。最後に関田は、パジャヴァと本作品について下記のように述べている。

「美がなくては新体操ではありません。彼女は技術、身体能力、手具の使い方などの基礎訓練がしっかりしていました。そして彼女に合った音楽と構成、手具の扱い方、ステップに特徴がありました。新体操は舞踊では終わらず、手具を利用し新体操の採点規則を用いて演技を構成します。彼女は他の選手と違った手具の操作により自分の作品をアピールし動きには強弱のメリハリが見られた。たとえ 100 人の選手が出てきても、彼女 にしか持っていないものが観客、審判の心を打つ作品になっていました。しかし、いいね！と言われるものが得点につながらない、メダルに値しないこともあります。その理由は採点競技であることから例えば身体難度の価値や手具難度の価値が高いレベル、低いレベル、またミスなく実施されているか等すべての合計により順位が決定します。彼女の作品は高い難度要素の価値点だけにこだわらない芸術の部分を強調した内容でした。誰にも真似のできない音楽のキャラクターを生かした構成法であり、今も彼女の演技は人々の心に残っています。」

（2021年1月19日、2月12日のインタビューより）

確かにパジャヴァはメダル獲得には届かなかったのだ。中村は、パフォーマンスの影響の特質の一つとして、不確定で一回性の強い生身の身体表現を通して従来の芸術概念の拡張と再定義を図るということがある（中村，2021：354）と述べている。2015年シュトゥットガルト世界新体操選手権大会では、パジャヴァのクラブ作品実施後に大観衆の熱狂的声援が起きた。そしてパジャヴァの演技が鑑賞者との関係性を変容した。中村の言葉を借りるならば、パジャヴァのパフォーマンスにより作品は「つくり手とうけ手という二項対立は崩され、鑑賞者は受動的な観客から能動的な参加者へ変容している」のである（中村，2021：355）。当時、審判として参加していた筆者は、競技場が地鳴りのような鑑賞者の熱狂に包まれたことを記憶する。この熱狂は4年間にわたって「創作者の世界観」ジョージア民族のアイデンティティを提示し続けたパジャヴァ、ベドシュヴィリ、ドリッツェの成功の証ともいえよう。

最後に本稿の分析と記録が2021年改正の新体操採点規則の変更後においても作品構成手法の一助とならんことを期待する。

謝辞

第一報から本稿までの執筆に際し、惜しみないアドバイスを下さった秋葉茂季先生に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

参考文献

1）美学会編：2021『美学の事典』 丸善書店：354，355，408，578，579
2）遠藤保子：監修　弓削田綾乃、高橋京子、瀬戸邦弘、相原進：編著，2020『映像で学ぶ舞踊学－多様な民族と文化・社会・教育から考える－』大修館書店：3
3）Eurasianet Georgia：Tinkering with the Country's Dance https://eurasianet.org/georgia-tinkering-with-the-countrys-dans-dna（2021年2月1日）
4）Federation International de GYMNASIQUE, 2020 “ATHLETES BIOGRAPHIES PAZHAVA Salome”（国際体操連盟，2020,” 選手プロフィール 経歴 サロメ・パジャヴァ）PAZHAVA Salome-FIG Athlete Profile（gymnastics.sport）（2020年12月3日）

5）საქართველოს შოთა რუსთაველის თეატრისა და კინოს სახელმწიფო უნივერსიტეტი ჰუმანიტარულ, სოციალურ მეცნიერებათა, ბიზნესისა და მართვის ფაკულტეტი სადოქტორო პროგრამა: ქორეოგრაფიული ხელოვნების ისტორია და თეორია 4（ゲリアシュヴィリ、”振り付け芸術の歴史と理論”，ショタルスタヴェリ劇場およびジョージア州立大学映画学部人文社会科学部経営学博士課程　ナンバー2014 4）
6）ジョージア政府観光局 http://gntb.jp/sightseeing/cultural_heritage/
ジョージア多声音楽（ポリフォニー）（2020年12月27日）
7）グルジアダンス　ラチュリ　アンサンブル　ズロトエ　ルノ
https://youtu.be/D317fLmCAxI（2020年2月6日）
8）ぐるじあナビhttp://www.georgianavi.com/music.html（2020年12月10日）
9）Истина-в танце！（真実－ダンスの中！）
https://sites.google.com/site/istinavtance/home/ibero-caucasia/ratchuli（2020年12月10日）
10）Ilouri（イロウリ）https://youtu.be/xL2T8B8_qS0（2021年2月6日）
11）Картули（カルトゥリ）https://youtu.be/w33nkOmsxQc（2021年2月6日）
12）ローソン： 松本千代栄： 校閲　森下はるみ： 訳昭和50年『フォークダンスー民族性と舞踊技術―EUROPEAN FOLK DANCE ITS NATIONAL AND MUSICAL CHARACTERISTICS』大修館書店：82, 83, 84, 85
13）Makatsaria, 2004,“The Georgian Dance：Cultural and historical overview”Art-Rustavi, 26（マカツァリア，2004“ジョージアのダンス：文化と歴史的外観“アート　ルスタヴィ，26）
14）Rachuli（ラチュリ）https://youtu.be/aK5taQZwgig（2021年1月12日）
სუხიშვილები ცეკვა ზეკარი,ილოური,ქართული-MYVIDEO（2021年2月6日）
15）ラチュリ　モケ・カバ（グループバニ）ჯგუფი ბანი რაჭული
https://youtu.be/M84T4-5ALKY（2020年2月6日）
16）新体操技術委員会：2013,『2013-2017 新体操採点規則』公益財団法人日本体操協会：10, 17, 20
17）Shilakadze, Tsurtsumia, Tsurtsumia：2005“POLYPHONY AND GEORGIAN FOLK MUSIC INSTRUMENTS”, International Research Center for Traditional Polyphony；Tbilisi V. Sarajishvili state Conservatoire：LTD Chokhi：453（シラカツェ，ツルツミア、ツルツミア：2005”ポリフォニーとジョージアの民族音楽楽器“，伝統多声音楽国際研究センター　トビリシV.サラジシュヴィリ州立音楽大学：LDTChokhi：453）
18）Sukhishvili Georgian National Ballet https://sukhishvili.net/about-us/（2020年12月10日）
19）Time OuTbilisi The Messenger online, 2020,”the dance of Racha”
（トビリシ伝統のひと時　メッセンジャーオンライン，2020,”ラチャのダンス”）
http://www.messenger.com.ge/issues/2175_august_20_2010/2175_traditions.html（2020年12月8日）
20）Toledo, Oliveira, Scarabelim, Assumpção, 2018”THE IMPACT OF THE CHANGE IN THE MUSICAL ATTRIBUTES OF THE CODE OF POINTS（2013-2016）ON THE ROUTINES IN RHYTHMIC GYMNASTICS OF THE RIO 2016 OLYMPIC GAMES“(Science of Gymnastics Journal Vol.10 Issue 3：432
（トレド、オリヴェイラ、スカラベリム、アスムプカン，2018,“2016リオオリンピックゲームズの（2013-2016）新体操採点規則の音楽的属性の変化の影響”，体操の科学ジャーナル　Vol.10 Issue 3：432
21）UNITID GEORGIAN GYMNASTICS FEDERATION（ジョージア体操連合）
http://uggf.ge/en/home（2021年2月1日）
22）ワガノワ：村山久美子訳1996,『ワガノワのバレエ・レッスン』株式会社新書館：55, 57
23）ウィキペディア　ラチャ＝レチフミおよびクヴェモ・スヴァネティ州
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%81%E3%83%A3%EF
（2021年2月2日）
24）Yazbeguri（カズベグリ）https://youtu.be/F_rFHd9sock（2021年2月6日）